
第3回 映画英語学ワークショップ

日時： 2011 年 5 月 14 日（土）
10:55AM～17:40PM
（10:30 AM 開場）

会場： 京都外国語大学 1 号館 171 教室

主催：映画英語教育学会（ATEM）関西支部

共催：京都外国語大学学内共同研究藤枝班

後援：映画英語教育学会（ATEM）

協賛：株式会社フォーイン・スクリーンプレイ事業部



The **A**ssociation for **T**eaching **E**nglish through **M**ovies

プログラム

10:55－11:00 開会の辞 藤枝 善之 (ATEM 関西支部支部長・京都外国語短期大学)

11:00－11:30 映画『シェーン』の英語の特徴について
横山 仁視 (京都女子大学)
河野 弘美 (京都外国語短期大学)

第一部 (研究発表)

司会： 石川 弓子 (大阪大学)
11:40－12:10 「映画の実例に基づいた中間構文の成立条件に関する意味論的考察」
前田 晃寿 (京都外国語大学・院生)
12:10－12:15 休憩
12:15－12:45 「英仏日語における移動「経路」の表し方」 濱上 桂菜 (大阪大学・院生)
13:45－12:50 休憩
12:50－13:20 「英語の比較相関構文における conditionality について」 小林 翠 (大阪大学・院生)
13:20－13:25 休憩

司会： 倉田 誠 (京都外国語大学)
13:25－13:55 「映画の反例的シーンを使った授業の一試案」 飯田 泰弘 (大阪大学・院生)
13:55－14:00 休憩
14:00－14:30 「強意句をともなう構文イディオムとその構成性」 吉川 裕介 (佛教大学・非)
14:30－14:35 休憩
14:35－15:05 「知覚構文を通して "正しく" 鑑賞する『ダークナイト』」 藤本 幸治 (京都外国語大学)
15:05－15:10 休憩

司会： 藤枝 善之 (ATEM 関西支部支部長)
15:10－15:40 「英語の映画・テレビ番組に現れる否定疑問文に対する<日本語的>な応答」
渡邊 信 (ATEM 東日本支部代表理事・麗澤大学)
15:40－15:50 休憩

第二部 (シンポジウム)

テーマ： 「語用論で読み解く映画の英語」

司会： 井村 誠 (大阪工業大学)
15:50－17:40 「発話媒介行為の慣用的用法に関する一考察」 衛藤 圭一 (帝塚山大学・非)
「映画にみる談話辞 actually について」 五十嵐 海理 (龍谷大学)
「映画で学ぶ okay の語用論」 西川 真由美 (摂南大学)

17:40－17:45 閉会の辞 倉田 誠 (ATEM 関西支部大会実行委員長)

18:00－20:00 支部交流会

研究発表概要

●「中間構文の成立条件」

前田 晃寿（京都外国語大学・院生）

発表概要：

中間構文は特殊な構文ではあるが日常でも用いられ、映画のセリフにも使用される。学校文法では取り入れられていないため学習者には理解が難しい。しかし、中間構文の成立条件に関する定義は曖昧である。本発表では、中間構文はコントラスト・行為者能力の欠如という二つの必要条件を満たすことによって適格になるという提案を行うことを目的とする。そこで、『プラダを着た悪魔』などの映画での実例を示しながら、コントラスト・行為者能力の欠如の二つの条件を考察する。

●「英仏日語における移動「経路」の表し方」

濱上 桂菜（大阪大学・院生）

発表概要：

"He could swim (...) across lake Sunapee (...)"（『ナイト&デイ』）は、across の「～を横切って」という意味に捉われて訳すと、極めて不自然な表現になる。これは、移動「経路」の表し方が英語と日本語の間で異なる（Talmy 1985, 1991）にも関わらず、それを無視して表現しようとするため生じる問題である。本発表では、日英語間でどのように移動表現が異なるのかを映画を通して確認し、その英語教育への応用を提案する。また、さらに仏語の移動表現を紹介し、仏語が日本語と共通した「経路」の表現方法を持っていることを見る。英語や日本語の特徴を改めて認識するためには、仏語のような多言語の表現を知るのが効果的であると思われる。

●「英語の比較相関構文における conditionality について」

小林 翠（大阪大学・院生）

発表概要：

英語には *The closer you are, the further the pain will fade away.*（『プリティ・プリンセス 2 ロイヤル・ウエディング』）のような *the X-er ... the Y-er ...* といった構文（以下、比較相関構文）がある。これは、日本語における「すればするほど...になる」に概ね対応した表現である。本発表では、先行研究において指摘されている比較相関構文と条件文との類似性に注目する。そして、映画やドラマにおける事例を通し、当構文の特性、とりわけ当構文の conditionality に関する特性を明らかにしたい。当構文における conditionality の議論は、特に、当構文を正しく解釈し広く使用することを目指す上級英語学習者（大学生など）にとって、有益な知識になると思われる。

●「映画の反例的シーンを使った授業の一試案」

飯田 泰弘（大阪大学・院生）

発表概要：

映画を利用した授業では、実際のシーンを観ながら、英語学的に興味深い現象を紹介するという形が主流であると思われる。しかし一方で、映画には標準的な制約内には留まらない「反例」も多々登場する。例えば「昨日」は yesterday であり one day ago とは通常言わないが、では間接話法でもない場面で「明日」に the next day を使うシーン（e.g. 『タイムマシン（2002）』）からは、どのようなことが推察されるのであろうか。本発表が目指すのは、様々な英語学の分野に関連する映画の反例的シーンを紹介し、それらを有効利用した一教授法の提案である。

●「強意句をともなう構文イディオムとその構成性」

吉川 裕介（佛教大学・非）

発表概要：

Mary beat the hell out of me.（メアリーは私をこてんぱんに叩きのめした）は一種の強意表現として解釈され、これを V + the hell out of 構文と呼ぶ。本発表では、この構文は決して希有な表現ではなく、特に口語で頻出する点、そして V の位置には幅広い動詞が代入する点を『南極物語』（2006）などから明らかにする。次に、V + the hell out of 構文の誇張解釈が結果句の to death とある程度並行している点を論じ、構文全体の解釈が構成する各語彙要素の意味から計算できるのかという構成性を語彙意味論の観点から実証的に明らかにする。なお、本研究は五十嵐海理氏（龍谷大学）との共同研究である。

●「知覚構文を通して "正しく" 鑑賞する『ダークナイト』」

藤本 幸治（京都外国語大学）

発表概要：

本発表では、Akmajian（1977）や Napoli（1988）などで取り上げられたいわゆる、学校文法で知覚構文と呼ばれる英語構造を再考し、かつ、これに談話文法を交差させなければ、台詞が指し示す事象を正しく理解することができず、映画の鑑賞を台無しにする可能性があることを紹介する。具体的問題点としては、知覚動詞が、通常の節を下位分類化し、ECM 効果を生み出すのか、あるいは小節としての分析が妥当であるのか、あるいはそれ以外の新たな統語構造の可能性について検討する。また、談話文法上に置ける指示詞 "those" の射程範囲の決定のための映画のコンテキストの解釈も紹介する。

●「英語の映画・テレビ番組に現れる否定疑問文に対する＜日本語的＞な応答」

渡邊 信（麗澤大学）

発表概要：

英語の否定疑問文に対する標準的な応答パターンは、＜yes, 肯定文＞および＜no, 否定文＞であると言われる。例えば、(1)の標準的な応答は(2a, b)のいずれかである：

(1) Didn't you go?（行かなかったんですか？）

(2) a. Yes, I did.（いいえ、行きました。）

b. No, I didn't.（はい、行きませんでした。）

本発表では、映画・テレビ番組の用例を使って、英語の否定疑問文の応答として、＜日本語的＞な応答、すなわち＜yes, 否定文＞および＜no, 肯定文＞も可能であることを紹介する。具体的にはいわゆる否定平叙疑問文（e.g. *You didn't go?*）、*not* が前置されていない否定疑問文（e.g. *Did you not go?*）が＜日本語パターン＞の応答を許すことを観察する。『サブリーナティーンエイジ・ウィッチ』『フレンズ』『The O.C.』など学生に人気の高い作品からの用例を時間の許す限り考察し、私たち日本人英語学習者にとって習得しにくい英語の yes と no の「心」に迫りたい。

シンポジウム発表概要

●「発話媒介行為の慣用的用法に関する一考察」

衛藤 圭一（帝塚山大学・非）

発表概要：

発話媒介行為とは、発話することによって特定の意味を生み、相手に「命令」や「依頼」などを行うことである。たとえば、“What's X doing here?”という発話は文字通りには「X はここで何をしているの？」

であるが、X の部分に無生物主語が生起すると、「X は邪魔だ、X をどける」という話し手の真意を表し、聞き手にそうするよう促す命令表現となる。本発表では、5 つの慣用的な発話媒介行為表現に焦点を当てる。これらの慣用表現は文字通りの解釈をされる場合はまずないという点を、映画『ゴースト』や『エリン・ブロコビッチ』に生起する場面を通じて検証することにした。

●「映画にみる談話辞 actually について」

五十嵐 海理（龍谷大学）

発表概要：

actually には2つの使い方があることが知られている。強意副詞としての用法と、談話辞としての用法である。談話辞としての actually は、前言を修正する役割を果たすこともある。本発表では、たとえば、映画『ダヴィンチ・コード』や『ユー・ガット・メール』における actually の用法を参考にしながら、そのような使われ方をしている actually について、先行研究を概観し (Aijmer 1986, Taglicht 2001, 松尾 2008, 他)、その意味と機能を検討する。また、たとえば、談話辞 actually の用法に興味を持った生徒の視点から、学習英和辞典など辞典にみられる actually の用法についても観察する。

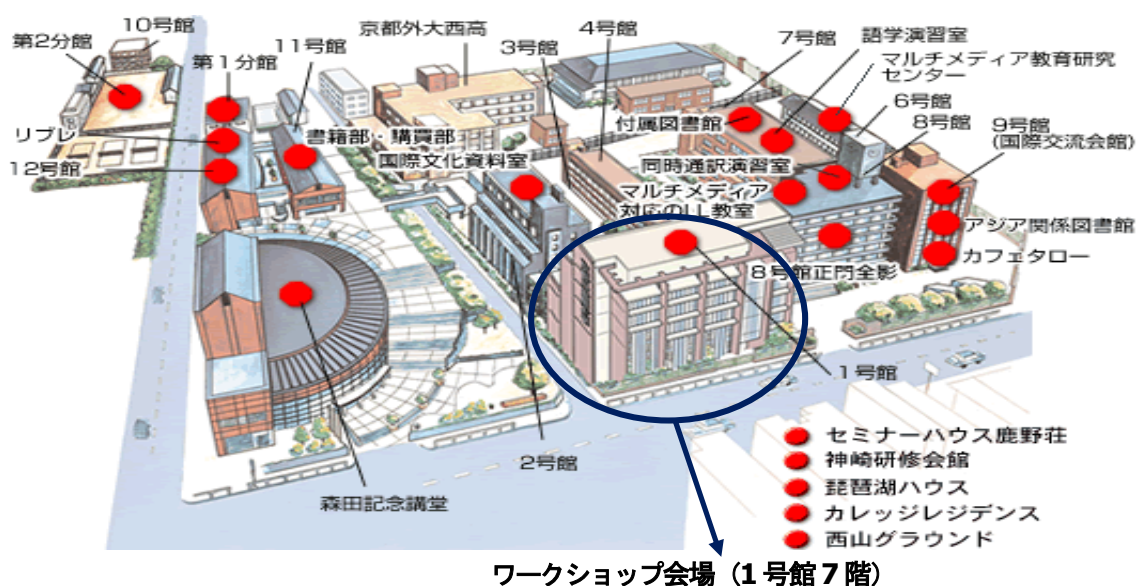
●「映画で学ぶ okay の語用論」

西川 真由美（摂南大学）

発表概要：

英語の okay は、OK ともつづられ、くだけた会話の中で頻繁に使用される。基本的には、形容詞・副詞として使用される語だが、間投詞としても頻繁に用いられる。また、談話内の役割としては、応答詞・談話標識としての機能も有する。okay は、基本的には「是認」の意を持つとされるが、実際は話し手の是認の態度を常に表すとは限らない。本発表では、映画『ノッティングヒルの恋人』を題材に、応答詞・談話標識としての okay が談話の中でどのような意味を持ち、どのような役割を果たすのかについて、語用論的観点から考察する。

会場校キャンパスマップ



【お知らせ：大会参加費について】

会員・非会員とも大会参加費は無料です。
どなたでも自由に参加できます。ご来場をお待ちしています。

【お知らせ：交流会について】

ワークショップ終了後には、交流会（有料 3,500 円）を予定しています。
発表者を交えて情報交換ができる場です。
当日、受付で申し込みをしていますので、是非、ご参加ください。

【お知らせ：『シェーン』差し上げます】

株式会社フォーイン・スクリーンプレイ事業部のご厚意により、先着 30 名様に、
名作映画完全セリフ集『シェーン（DVD 付）』（2010 年 11 月 30 日発行）、
その他（当日のお楽しみ）を差し上げます。

会員登録のお知らせ

新会員申込は本部 HP（<http://www.atem.org/pg113.html>）「会員登録」から

氏名、住所、電話・FAX、E-mail、勤務先、所属/職業を明記し、
電話・FAX または E-mail でお申込みください。

※会員名簿は発行しておりません。

申込先：映画英語教育学会 事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-3-12 アルク高田馬場 4F

株式会社 広真アド内

TEL: 03-3365-0182 FAX: 03-3360-6364

E-mail: office@atem.org

第 9 回関西支部大会のお知らせ

「映画英語教育学会関西支部 第 8 回大会」を以下の日程で開催予定しています。

- 開催日： 9 月下旬（予定）
- 場所： 京都女子大学

日程の詳細は決定次第、また、研究発表希望者の公募は、6 月上旬に支部ホームページ
(<http://www.atem.org/kansai/index.html>) 上で案内します。

ATEM 関西支部活動の紹介

【映画英語教育テクニカル・ワークショップ】

2011 年 3 月 12 日	映画英語教育テクニカル・ワークショップ（於： 京都外国語大学） ●【内容】知っておくと授業や研究がレベルアップするー映画応用の技術やインターネットサイトの利用法が学べるワークショップです。①映画のリッピング、②パワーポイントへの貼り付け、③英語字幕データベースとコンコーダナーの有効活用、④無料のサイトやソフトの紹介、⑤著作権など。
-----------------	---

【映画英文法ワークショップ】（第 3 回大会より「映画英語学ワークショップ」に名称変更）

2009 年 5 月 9 日	映画英文法ワークショップ 第 1 回大会開催（於： 京都外国語大学） ●シンポジウム：「英語の時制表現に関する一考察」
2010 年 5 月 14 日	映画英文法ワークショップ 第 2 回大会開催（於： 京都外国語大学） ●シンポジウム：「認知言語学で読み解く映画の英語 ―中・高・大の授業の活性化をめざして―」

【支部大会】

2002 年 9 月 14 日	映画英語教育学会関西支部設立決起大会開催（於： 京都外国語大学）
2003 年 9 月 14 日	映画英語教育学会関西支部 第 1 回大会開催（於： 京都外国語大学） ●シンポジウム：「怪物映画に学ぶドラキュラ vs フランケンシュタイン vs スパイダーマンー」

2004 年 6 月 26 日	映画英語教育学会関西支部 第 2 回大会開催（於： 京都外国語大学） ●シンポジウム：「"Working Girl" 徹底活用法」
2005 年 9 月 18 日	映画英語教育学会関西支部 第 3 回大会開催（於： 京都女子大学） ●シンポジウム：「"DAVE" 徹底活用法」
2006 年 10 月 21 日	映画英語教育学会関西支部 第 4 回大会開催（於： 大阪工業大学） ●シンポジウム：「"I am Sam" 徹底活用法」
2007 年 10 月 20 日	映画英語教育学会関西支部 第 5 回大会開催（於： 摂南大学） ●シンポジウム：「"The Devil Wears Prada" 徹底活用法」
2008 年 10 月 18 日	映画英語教育学会関西支部 第 6 回大会開催（於： 京都ノートルダム女子大学） ●シンポジウム：「"Anne of Green Gables" 徹底活用法」
2009 年 09 月 26 日	映画英語教育学会関西支部 第 7 回大会開催（於： 手塚山大学） ●シンポジウム：「"LITTLE MISS SUNSHINE" 徹底活用法」
2010 年 09 月 25 日	映画英語教育学会関西支部 第 8 回大会開催（於： 近畿大学） ●シンポジウム：「"Shane" 徹底活用法」

ATEM Kansai

<http://www.atem.org/kansai/index.html>

映画英語教育学会（ATEM）関西支部
事務局：京都女子大学外国語教室
横山仁視研究室内
yokoyama@kyoto-wu.ac.jp